

流行ニュース：

< コレラ、マダガスカル > (最新報告)

1999年 12月 1日から 2000年 3月 3日までに、死亡者 736人を伴うコレラの 12,481症例が報告された。WHOアフリカ地区事務所は、コレラ蔓延の状況を受けて、さまざまな活動に参加しており、さらにマダガスカルの保健省庁から要請があれば、直ちに追加支援を行うために待機している。

今週の話題：

< メジナ虫症根絶 -伝播終息の認定 >

The International Commission for the Certification of Dracunculiasis Eradication, 第4回国際メジナ虫症根絶認定委員会 (ICUDE)が、2000年 2月 15-17日に開催され、WHOの6地区の国や属領から提出された申請書が審査された。ICUDEが必要と認めた場合、詳細な国家報告書以外に国際認定チーム (ICT)による報告書も作成された。ICUDEは、すべての申請書を審査し、42の国や属領にメジナ虫症の伝播終息を認定するようにWHO事務局長に勧告した。現在、メジナ虫症の伝播は、アフリカ大陸に限られている。なおも流行地となっている国では、撲滅運動を強化する必要がある。こうした国では、安全な飲料水の供給・症例の抑制策・危険にさらされている住民に対する衛生教育が、なおも伝播の食い止めや成功への重要な手段となっている。ICUDEは、さらに、WHOへの月間報告を確実にを行うため、報告活動を継続し、強化しなければならない。

アフリカ地区：インド (1996年)やイエメン (1997年)で伝播が止んだ後、いまだ流行地となっている国はすべてアフリカ大陸にある。

南北アメリカ地区：この地区では、ここ1世紀、メジナ虫症は問題になっていない。

東地中海地区：スーダンが、この地区でなおも流行地となっている唯一の国である。

ヨーロッパ地区：ICUDEは、10ヶ国から提出された書類を審査した。

東南アジア地区：東南アジア全土でメジナ虫症の伝播終息が認定されている。

西太平洋沿岸地区：すべての国がメジナ虫症の伝播終息の認定を勧告された。

< 伝染病に関する予測：パート 2 >

WHO東地中海地区¹

予測は、既存の動向をベースにした推定を頼りに、将来に起こり得る出来事を予想する方法である。予測を行うには様々な方法があるが、ある伝染病にかかるリスクがその人口の全体的なリスクに関わっており、個人を伝染病から保護するということが他の人々の伝播のリスクを少なくするという事実から、疫学予測では数学的な予測モデルを使っている。公共医療サービス計画や防疫プログラムを進めていくうえで、疾病が将来的にどの程度の規模のものになっていくのかについてある程度認識が必要になってくる。将来に予期される疾病負担に対処するには、現時点で決断と選択が行われなければならないからである。このように予測は計画を進めるうえで情報面でのサポートを行っているのである。

予測の前提条件：

(a) 伝染病に関する過去のデータの入手可能性とそうしたデータの正確性。時間別の

重要な変化パターンを明らかにするためには、十分な過去のデータが必要となる。一般に、データ収集には、さまざまな出所がある。なかでも、疾病監視体制は最も包括的なものである。データの整合性や正確性は、的確な予測の条件になる。予測プロセスに用いられるデータが「健全なデータ」であることを見極めるのは重要である。これには、データ報告に透明性・一貫性・完全性がなければならない。

(b) 過去における変化の原因の適切な理解。疾病のパターンを理解し、そうしたパターンの決定要因を解明するには、疫学技術が重要となる。疫学サービスが不十分な国では、能力不足が著しい。

(c) 将来、伝染病の変化パターンに影響する可能性のある要因。地区委員会により承認された最近の文書では、疫病のパターン変化とその変化の背後にある要因が詳細に論じられている³。こうした要因は、気候変動といった環境的なものや、生活様式や行動様式の変化といった人的なもの、遺伝的变化などの病原体関連のものである。

参照¹: 『伝染病における予測』からの抜粋。1999年、WHO東地中海地区委員会に提出された技術論文(文書 EM/RC/46/8)。

参照²: 続く。

参照³: 疫病のパターン変化とWHO共同プログラムに与えるそれらの影響。WHO東地中海地区委員会へ提供された技術論文。1994年(文書 EM/RC41/7)。

流行ニュースの続報:

インフルエンザ

カナダ(2000年2月29日)¹: 2月の第2、3週は、インフルエンザ監視地域のいずれからもインフルエンザ流行の報告はなく、5州のみで局地的な活動の報告があった。

クロアチア(2000年2月29日)²: 2月の第3週は、なおもインフルエンザが蔓延していたが、インフルエンザ様の疾病の発生率は減少し、現在は、インフルエンザの活動も局地的な発生レベルにまで低下している。

英国(2000年2月29日)¹: インフルエンザの活動は2月の第1週から減少して、10万人に20症例、とベースラインの閾値を大きく下回っている。

米国(2000年2月29日)¹: インフルエンザの活動は、2月の第2週までに、大半の州で局地的にまで減少して、なおも下降し続けている。

参照: ¹No.3 2000 pp.25-28 ²No.8 2000、p.68

<伝染病の疫学的監視体制と管理>

2000年9-12月にフランスのパリで開設される国際疫学トレーニングコース
伝染病の管理方法に関するフランスの第25回国際疫学トレーニングコースが、2000年9月11日-12月22日にパリにて開設される。定員は20名で、2000年7月1日まで申し込み受け付け。登録料は6,000ユーロ(39,600万円)。詳しい情報の請求は、下記住所まで: CIELF事務局(CIELF Secretaria, 44 chemin de Ronde, 78116 Le Vesinet Cedex, France(Tel:+33 1 34 80 24 64 Fax:+33 1 34 80 24 48)。

(藤田亘、古川宏、宇賀昭二)